

## 要 旨

低学年の説明的文章の学習において、図鑑を作ることを通して、自分の考えをもつ力を育てる指導の在り方を探った。図鑑を作るという書く活動の中で、学習意欲をもたせながら、補助教材を効果的に活用し、「比べる」読みを読み取りの過程に取り入れた。児童は、書き手の伝えたいことを1年生なりに解釈し、自分の考えをもつことができるようになった。

キーワード 挿し絵や写真などの補助教材の活用 「比べる」読み 表現活動

## 1 研究の目標

説明的文章の学習において、表現活動を取り入れることを通して、自分の考えをもつ力を育てる読解指導の在り方を探る。

## 2 目標の設定

現行学習指導要領解説の「読むこと」では、「読み取ったことを絵画で表現したり、挿し絵や写真から読み取ったことを説明したりするなど、『話すこと・聞くこと』『書くこと』の領域との関連を図ることによって読みの力を高めていく工夫」<sup>1)</sup>の必要性が求められている。「読むこと」の授業の中に、言語活動を取り入れることが求められている。

国際PISA調査（平成15年）の結果、日本の子どもたちは、読解プロセスでは「熟考・評価」及び「解釈」、出題形式では自由記述が不得手であることが分かった。そして、「『読解力』の課題が、『読む力』にとどまらず、『書く力』や、特に『考える力』と関連している」<sup>2)</sup>ことが示唆されている。

国語科の学習において、多くの児童は、文章の内容を確かめる問いに答えることができる。しかし、学習したことを基に他の資料で調べて図鑑などを作る活動に入ると、どのようなことを読み取ったり、書いたりしていけばよいのか分からないことが多い。事柄は読めるが、自分で新しい情報を見付け出したり、自分の考えを付け加えたりすることを苦手としているのである。その原因の1つとして、教師が、内容の確認のみを重視した授業の展開を行っていることが考えられる。

表現活動は、個々が考えをもつための時間と場が保障されることや、教師が児童の達成度を確認できるよさがある。また、児童は相手・目的意識をもつことができ、学習意欲がわいてくる。教師は、教材を使って児童に考えのもち方を身に付けさせるような授業を仕組む必要があると考える。

そこで、表現活動を通し、児童に自分の考えをもつ力を身に付けさせるための指導法を探っていきたいと考え、本目標を設定した。

## 3 研究の仮説

説明的文章において 表現活動を取り入れ、挿し絵や写真などと言葉を関連させながら読ませれば、自分の考えをもつ力を育てることができるであろう。

## 4 研究の内容と方法

- (1) 低学年説明的文章において、補助教材（挿し絵や写真など）を取り入れ、読む力を高めることについての理論研究を行う。
- (2) 補助教材（挿し絵や写真など）と言葉を関連させながら読むことに関する指導方法の研究を行う。
- (3) 授業実践（第1学年）及び考察を行う。

## 5 研究の実際

### (1) 文献による理論研究

石田佐久馬は、著書の中で「説明的文章は、ただ知識・情報を与えるだけではない。書かれている事実から疑問を感じその解明を文章を通して進めていく過程と、よい結果を生み出したよさを感じるところに説明文を読むことの意味がある。」<sup>3)</sup>と述べている。児童に疑問をもたせたり、発見させたりしながら読ませることで、書かれていることを理解するだけの児童から情報を主体的に読んでいく児童へと育っていくと考える。

低学年説明的教材の指導について、岡田修一は「書かれている事柄を具体的に理解すると共に、読みの技能の育成という内容面と技能面の一体化を図りながら、読みの楽しさを目指さねばならない」<sup>4)</sup>とし、「写真やさし絵と、文章表現を結びつけながら読ませること。内容理解を確かにするため具体物や資料、図鑑等を提示して読ませたり、資料、図鑑等と比べながら読ませたりする。」<sup>5)</sup>などを挙げている。また、「文章とさし絵、写真は相補的に考えるべきであるが、説明文教材の内容理解には欠かせない重要なもの」<sup>6)</sup>と述べている。

説明的文章は、幼い頃から慣れ親しんだ童話や物語のように、人物の行動を順序付けて書いたストーリー性のある文章とは異なり、事実や意見を論理的に書き進めており、低学年の児童にとって、馴染みがなく、抵抗感がある。このことから、言葉と挿し絵や写真などとを関連させながら読ませることで、児童は興味をもって説明文を読んだり、内容を理解したりすることができると思う。

### (2) 挿し絵や写真などと言葉を関連させながら読むことに関して

岡田修一の考えを参考にしながら、読解力を高めるために挿し絵や写真などの補助教材を活用することのよさを考えた(表1)。

表1 補助教材の活用法(試案)

補助教材の活用法の視点	活用のメリット
A 提示された挿し絵や写真などを読む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材への関心が高まる。</li> <li>自分の体験を思い出すことができる。</li> <li>文章に書かれていない情報が獲得できる。</li> <li>書かれている情報がはっきりと見えてくる。(具現化)</li> </ul>
B 挿し絵や写真などと文章表現とを結び付けて読む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>書かれている情報を確かめることができる。</li> <li>語句の意味を理解したり、書かれてある内容をイメージしたりできる。</li> </ul>
C 挿し絵や写真、文章表現などを比べながら読む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>書かれていない情報が見えてくる。</li> <li>複数の情報に対する相違点・類似点が明確になる。</li> <li>文章構成が視覚化できる。</li> </ul>

活用のメリットは、実践していく中で随時、修正、追加を行う

### (3) 研究の全体構想(図1)

本研究では、「自分の考えをもたせる」ために、表現活動として、図鑑作りを行った。図鑑作りのよさを「楽しみながら学習に取り組むことができる」「一人一人が考える時間をもてる」「挿し絵などが内容理解の補助になる」と考えた。補助教材を活用し、「比べる」読みを児童が行うことで、知識や情報を得るだけでなく、書かれている文の意味を理解し、書き手の伝えたいことを解釈することを通して自分の考えをもつことができるようになると思った。

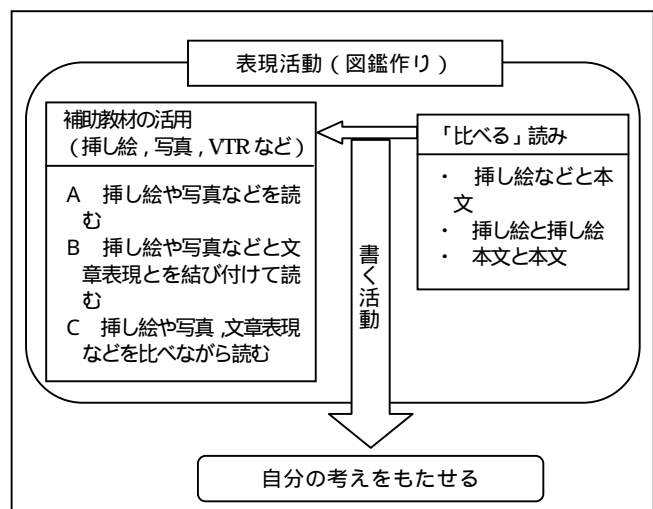


図1 全体構想図

(4) 授業実践

ア 授業実践 単元 「じどう車くらべ」

(ア) 教材「じどう車くらべ」の内容理解の学習

本教材では、「それぞれの自動車は、どんな仕事をしていますか。そのために、どんな作りになっていますか。」と二つの問題提示がなされている。その答えを本文中から抜き出すだけの情報の取り出しの読みではなく、なぜ、その答えになるのか、補助教材と言葉とを関連させながら児童が読み取ることで、教材文を解釈し、更に図鑑に載せるのに適した作りを考えていくことにした。

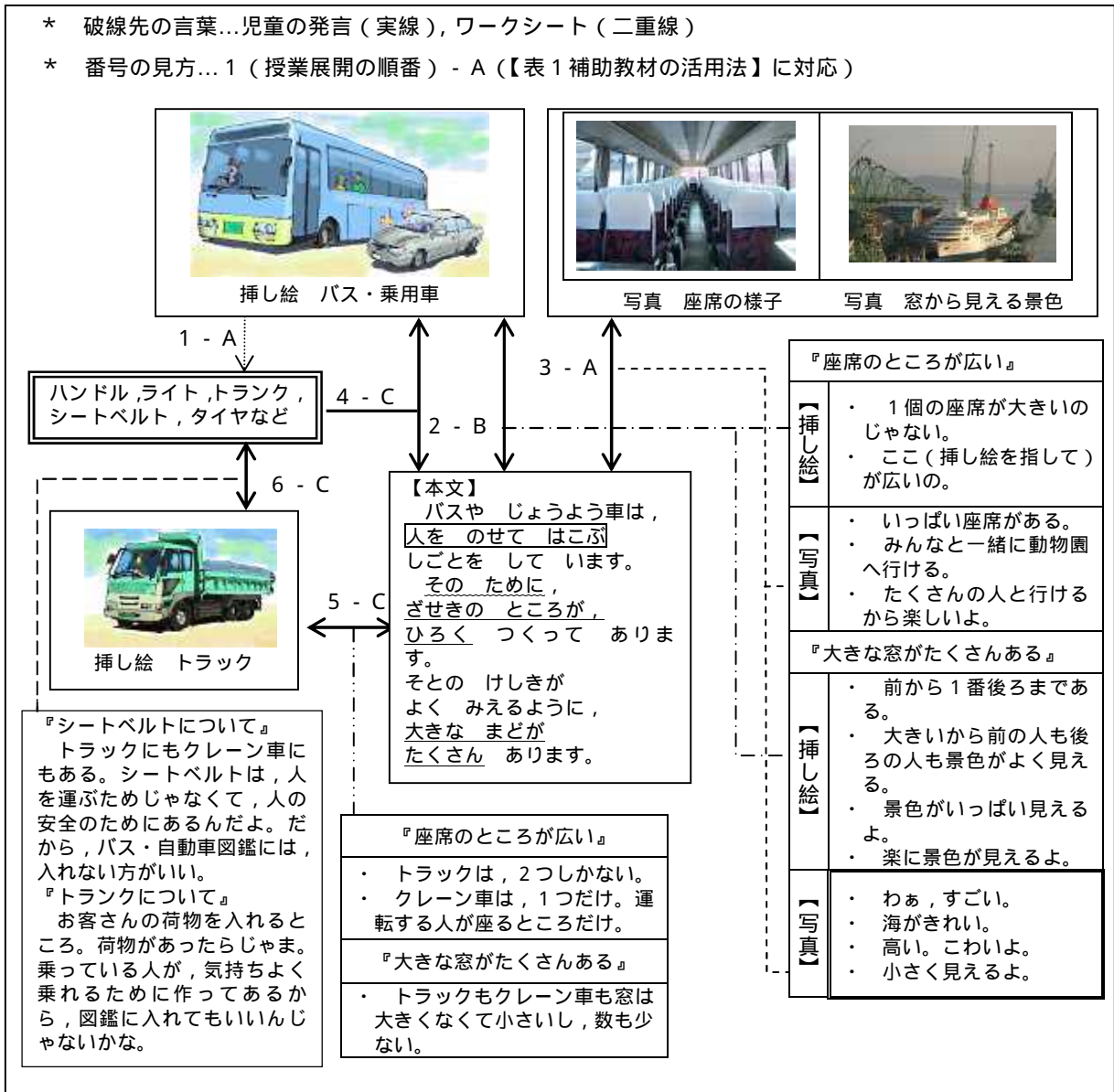


図2 授業の流れ（バス・乗用車の場面）

児童は、書かれている言葉が指している場所を確認（図2，2 - B）した後に、写真を使って、自分がバスや乗用車に乗っているときの気持ちを思い出した（図2，3 - A）。それによって、乗客のことを考えた構造になっているなど、作りのよさに気付くことができた。図2の4 - Cから「たくさん作りがあるのに、どうしてこの2つだけ書いているのだろう。」と投げ掛けると、「書く場所がなかったから」と答えた児童がいた。児童は、「本文中の作り = 仕事に合っている」ということは理解しているが、情報が選ばれて書かれていることまでは理解できていないことがうか

がえる。しかし、児童は他の自動車と比べた（前頁図2，5 - C）ことで、書かれている作りは、他の自動車にはない、その自動車の特徴を選んで書かれていることが分かったようだ。吟味する場面では、自分たちで見つけた作りを他の挿し絵（トラックやクレーン車）と児童は見比べ、他の自動車にもシートベルトやタイヤが付いていると挿し絵を指したり、タイヤは動くために付いているなど、バス・乗用車図鑑の作りに選ばれない理由を1年生なりに考えたりすることができた。授業の中で挿し絵と本文とを比べて（前頁図2，4 - C）疑問をもたせたり、他の自動車の挿し絵と比べ（前頁図2，5 - C）させたりしたことにより、児童は、自動車の特徴を意識しながら、見付けていた作り（前頁図2，1 - A）を図鑑に加えてもよいのかどうか、吟味することができたと考えられる（前頁図2，6 - C）。

(1) 他の資料を活用しての調べ学習 ～「お気に入りの自動車図鑑」作り～

前時までに学習したことを活用するために、児童がいろいろな自動車の本を読み、その中から、紹介したい自動車を選んで、自動車図鑑を作成することにした。

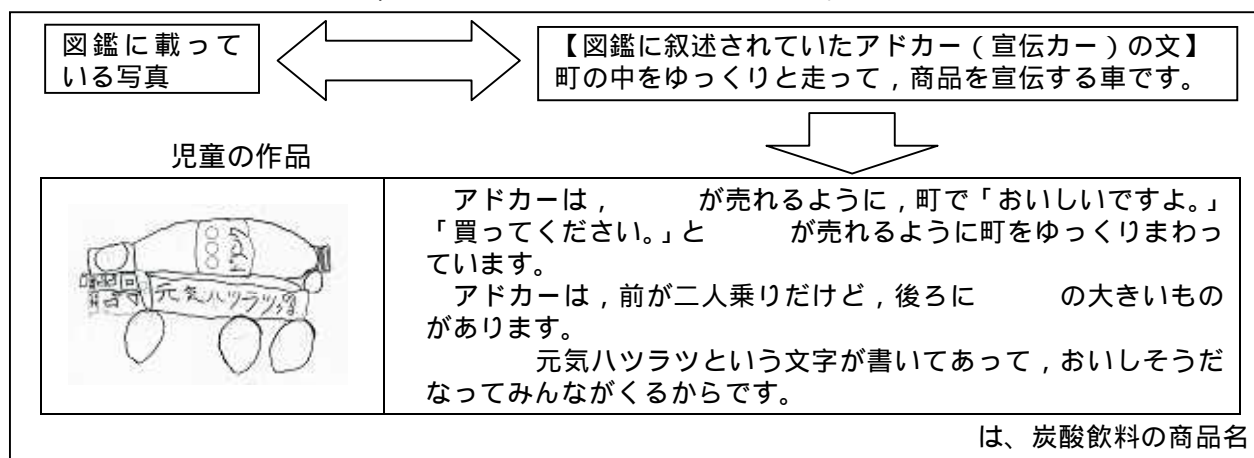


図3 授業の流れ（A児）

図鑑に説明されている文だけでは理解しづらい部分を写真と比べながら読んでいくことで、理解を深め、「仕事」「作り」「作りのよさ」を自分の言葉に置き換えて紹介することができた。

上記の児童は、の仕事について、「宣伝」という言葉を写真と結び付け「おいしいですよ。」「買ってください。」と、図鑑を読む友達にも分かるように置き換えている。また、のように、アドカーとしての自動車の特徴を写真からも情報として読み取り、書き換えている児童もいた。運転席以外の部分に目を向け、仕事に合った作りが何であるか考えていることが分かる。は、「元気ハツラツ」の言葉が書かれている理由を考えて書いている。このように、ほとんどの児童が、読んだ本をそのまま写すのではなく、書いてあることを解釈し、自分の言葉に置き換えて紹介することができた。

児童の中には、喜んで何枚も図鑑を作っている児童もいた。また、何を書けばよいか戸惑う児童は見られなかった。このことから、教材「じどう車くらべ」による補助教材を活用した「比べる」読みの学習が、自分で選んだ自動車を紹介する学習にもつながったと考える。さらに、読んで考えたことを書かせることで、自分の考えを明確にさせることができたと考える。

イ 授業実践 単元 「どうぶつの赤ちゃん」

(ア) 教材「どうぶつの赤ちゃん」の内容理解の学習

本教材は、ライオンとしまうまの赤ちゃんの「生まれたばかりのときの様子」と「大きくなっていくときの様子」を読み取る学習である。ライオンとしまうまの赤ちゃんを比較させて相違点・類似点などを見付けさせた。さらに、疑問やその答えを考えやすくするために、挿し絵以外にも写真やテーブルカレンダー（月数が記入されている表）などの補助教材を使って、言葉の具現化を図った。

\* 破線先...児童の考え \* 番号の見方...1 (授業展開の順番) - A (【表1 補助教材の活用法】に対応)

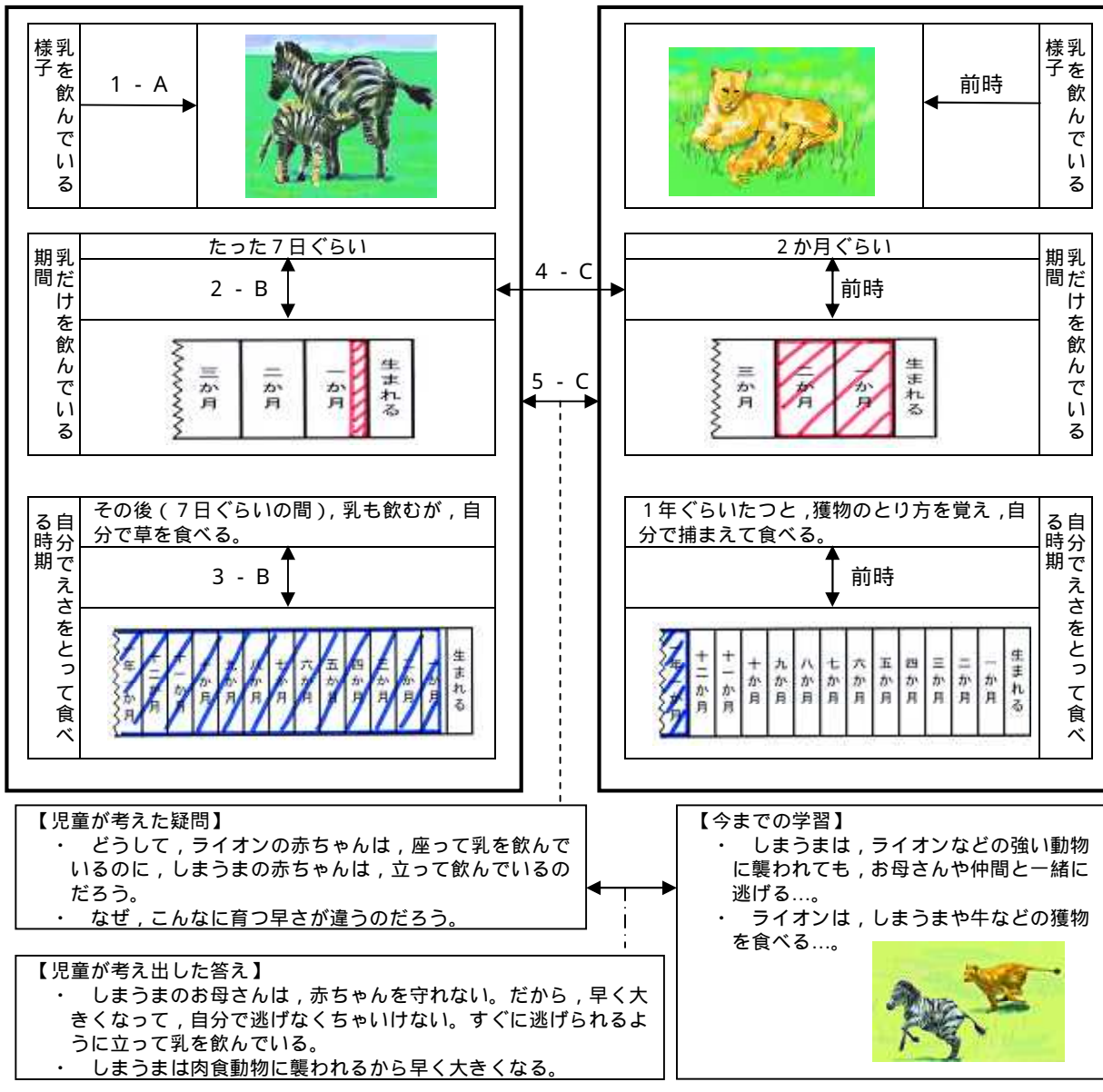


図4 どうぶつの赤ちゃん(大きくなっていく様子)の授業の流れ

児童は、乳を飲んでいる写真を見て(図4, 1 - A), 乳を飲む様子を知ったようである。さらに、しまうまが乳だけを飲んでいる期間や自分でえさをとって食べ始める時期を、テープカレンダーと結び付けて読む(図4, 2 - B, 3 - B)ことで、書いてある内容をイメージすることができた。

乳だけを飲んでいる期間は、「たった7日ぐらい」でなく、ライオンと同じように「7日ぐらい」でもよくないかと児童に問い掛けると、テープカレンダーを指し、2か月と比べる(図4, 4 - C)と、とても短いから、「たった」の言葉は必要だとの答えが返ってきた。時間を視覚的に表したことで、その違いを実感し、書き手の表現の意図を考えさせることができたと思える。

しまうまとライオンを比べさせ(図4, 5 - C), 疑問に思ったことをワークシートに記入させた。本文を補助教材で具現化して比べたことで、児童は、乳の飲み方や成長の早さの違いに気付き、自分たちで疑問をもつことができた。幾つかの疑問を全体に投げ掛けると、児童は、しまうまがライオンなどの肉食動物に襲われることなど、今までの学習と結び付けて考え、1年生なりの答えを考え出すことができた(図4)。

ウ 考えの持ち方に対する子どもの変容

(ア) じどう車くらべ

パトカーがどのような自動車なのか、記述式で説明させた。

学習の前後を比較すると、平均文字数が2倍以上増えている。また、仕事のみを目を向け、「泥棒を逮捕する」「悪い人を捕まえる」など、1つの視点から記入していた児童たちが、学習後では、「泥棒がいたことを知らせるために、上にライトがある」「交番に知らせる機械がある」など、自動車の作りにも目を向けていた。仕事内容も「事故があった場所へ行く」「町の中をパトロールする」など、他の自動車の仕事との違いを見付ける視点が増えていた。無記入だった児童も、自分で考え、記述することができた(表2)。

表2 考えの持ち方の変化

パトカーってどんな自動車ですか。(30名)				
量的変化				
	総文字数	平均文字数		
学習前	652	21.7		
学習後	1441	48.0		
UP	789	26.3		
質的变化				
	仕事	作り	よさ	無記入
学習前	25	5	0	4
学習後	30	15	4	0
UP	5	10	4	- 4

(イ) どうぶつの赤ちゃん

他の資料を調べ、自分で「動物の赤ちゃんなるほど図鑑」を作らせた後に、友達の図鑑を読んだ感想を書かせた。

今までは、友達の図鑑を読んでも、「すごいね」「～だと、初めて知りました」など、読んだことをそのまま受け入れただけの感想が目立っていた。しかし、初めて知ったことに対する自分の考えや他の動物と比べての違いなどを書いた感想が多くなった。比べて読み、自分たちで疑問をもつ学習により、感想をもつ視点が広がったと考える(図5)。

- ・ 2か月ぐらいたつと、目が開くんだね。自分がしたらこわいな。(パンダ図鑑を読んで)
- ・ 4か月ぐらい目が開かないんだね。短いね。(カンガルー図鑑を読んで)
- ・ 乳の時間になると、なんでお母さんは、「クックック」と鳴くのかな。(キツネ図鑑を読んで)
- ・ ぞうの赤ちゃんの目は、開いていて、しまうまの赤ちゃんに似ているね。(ゾウ図鑑を読んで)
- ・ 体重が10キログラムぐらい...大きさは、カンガルーの方が小さい。(アザラシ図鑑を読んで)
- ・ 2センチメートルって、そんなに小さいって知りませんでした。(コアラ図鑑を読んで)

図5 児童の感想例

6 研究のまとめと今後の課題

(1) 研究の成果

ア 補助教材と言葉を関連させながら読ませることは、疑問をもたせたり、解釈させたりするなど自分なりの考えをもたせることに有効であった。

イ 自分の図鑑を作らせることは、一人一人の考えを表現させることができ、意欲をもたせることに有効であった。

(2) 今後の課題

ア 自分の考えをもたせるための発問の組み立てを探る。

《引用文献》

- 1) 文部科学省 『小学校学習指導要領解説 国語編』 平成11年 東洋館出版社 p.46
- 2) 文部科学省 『読解力向上に関する指導資料』 平成18年 東洋館出版社 p.98
- 3) 石田 佐久馬編著 『再点検ほんもの国語授業』 平成14年 東洋館出版社 p.49
- 4)5)6) 岡田 修一 「低学年説明文教材の特色と指導のあり方」  
『説明文重要教材の授業展開』 1985年3月 明治図書 p.14